

平成21年11月

長崎港大型客船入港に伴う船舶航行安全対策調査専門委員会

1 委員会報告書概要

本委員会では、長崎港松ヶ枝岸壁（-12m）への15万GT級客船の入港について、入出港及び係留の安全性について調査検討し、安全な入出港及び係留に必要な安全対策をとりまとめた。

主な検討内容としては、船体に作用する風圧力等の外力影響を調査し、ビジュアルシミュレーション実験等によって入出港操船の安全性を検討するとともに、-12m岸壁の防舷材吸収エネルギーを調査し、15万GT級客船の許容接岸速度等を検討した。係留中の安全性については、係留動揺シミュレーション等の手法により、安全に係留可能な条件を検討するとともに望ましい係船索配置を提案した。

長崎港は、日本を代表する観光港であり、毎年多くの外航客船を受け入れており今後も増加することが考えられることから、港湾管理者が主体となって、関係者が入出港の安全に関する情報を共有し、安全管理体制がより一層強化充実するよう提言した。

2 調査等概要

- (1) 調査概要
- (2) 基礎資料
- (3) 入出港時の安全性検討
- (4) 係留時の安全性検討
- (5) 航行安全対策